

一人ひとりのよさや可能性を生かし、楽しく感性豊かに表現するための指導のあり方

## 1 設定理由

図工・美術で育てる「生きる力」とは、「表現・鑑賞の基礎的・基本的資質・能力や、豊かな感性、創造的な思考力等」である。これらの能力を育てようとして取り組んでいるが、図工・美術の授業時数の減少表現活動や材料の制限、表現意欲や自信の低下など、問題も多い。そこで、上記の共同研究主題を設定し、具体的な指導のあり方を研究していくことにした。

## 2 研究の方法

研究の視点にある学習目標と指導目標に向けて、「何を感じるのか」「どう発想していくのか」「何を表現するのか」「何を使って表現するのか」「どんな方法で表現するのか」等を明確にしなが、授業実践を通して個に応じた指導のあり方を探っていく。

## 3 研究内容

授業実践 小学校 第1学年

「どきどき わくわく 図画工作」

## 4 結論

- 保育園で経験のある遊びを活動に取り入れることで、苦手意識を持つことなく活動することができた。事前にどんなことをするか知らせることで、やりたいという気持ちが高まったり、使いたい材料や用具を自分で用意したりすることができるようになった。
- 試しの時間を多く設けたり、友だちと協力しながら活動したりすることで、一緒に活動できた喜び、工夫する喜び、できた・描けたという達成感を味わうことができた。

## 1 共同研究主題

一人ひとりのよさや可能性を生かし、楽しく感性豊かに表現するための指導のあり方

## 2 主題設定の理由

図工・美術は、思ったことや感じたことを、色や形などの造形要素を基に表現し、その美しさや喜びを味わわせたり、諸感覚を通して対象の美しさやおもしろさといった造形価値を感じとらせたり、芸術文化を理解させたりする教科であり、表現や鑑賞を通して児童生徒の豊かな心を養う教科である。

学校において図工・美術で育てる「生きる力」とは、「表現・鑑賞の基礎的・基本的資質・能力や、豊かな感性、創造的な思考力等」である。すべての生徒に学ばせる以上は、国語における文字や言葉の表現力や読解力のように、学習したことが普段の生活や他の学習にも生かされるものでなければならない。ただ楽しく作った、表現したで終わる活動ではなく、絵など形と色でなければ表現できないことやものを考えて計画的に作る方法や技能が身に付き、他の教科や生活の場で広く生かされることが必要である。

したがって、図工・美術では、自然やものなどを深く観察する力、豊かな発想力や構想力、それを具体的な形に表す確かな表現技能、自然や美術作品のよさや美しさを感じ取り、表現の意味や創造の工夫や知恵を読み取ったりする感性と鑑賞力を育てること。そして、それらが生涯にわたり美術を愛好していく関心・意欲・態度、能力となるとともに、美術以外の日々の生活の中でも生かされていくような普遍性、継続性のある美術の資質・能力を育てることが大切である。

しかし、生きる力に結びつく児童生徒の豊かな感性や情操、確かな能力の育成が叫ばれながらも、その核となる図工・美術の時間数が減り、その中で表現意欲や発想力などの各能力を高めたり、児童生徒を励ましながら達成感や満足感を味わわせたりすることが難しくなっている。また、屋外での表現活動や、使用する材料や用具が制限され、児童生徒が自ら気づき、感動する機会も少なくなっているのが現状である。

夷隅の子ども達についても同じ状況である。比較的明るく素直であり、話をよく聞いて学習活動を行うことができるが、「ここは何色で塗ればよいか」「次は何をしたらいいのか」といった指示がなければ表現できない子ども達も多い。その要因は、子ども達一人ひとりが主体的に自由に技法などを試したりして、選択して表現できる場が保障されていなかったり、表現することの楽しさや喜びが感じられなかったり、表現意欲や自信のなさにあるのではないかと考える。

夷隅の図工・美術部会では、「もっと地域に根ざす研究」「みんなで考え、高める研究」「だれでもわかる研究」を目指し、昭和61年度より共同研究を行ってきた。研究主題は、『豊かな表現力と感覚を高め、喜んで表現する児童・生徒の育成』である。共同研究が始まった当初は、地域の自然や社会を深く見つめさせる題材についての研究に重きを置いていたが、平成8年度からは、それぞれの地域の学校だけに通用する題材ではなく、どこの学校でも実践できる題材の開発に重点を置いて取り組んできた。共同研究に切り替えてからは、多くの素晴らしい実践の報告があり、特に小学校において優れた授業の取り組みが他校の実践に浸透し発展することができた。今後は、共同研究のよさを引き継ぎながら、時代の変化に対応し、新たな方向を探っていくことが必要と考える。

以上のことから、「一人ひとりのよさや可能性を生かし、楽しく感性豊かに表現するための指導のあり方」を研究主題とし、授業実践を通して具体的な指導のあり方を研究していくことにした。

### 3 研究の視点

生きる力



#### 図画工作の目標

表現及び鑑賞の活動を通して、感性を働かせながら、作り出す喜びを味わうようにするとともに、造形的な創造活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う。

#### 美術の目標

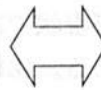
表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、美術の創造活動の喜びを味わい美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を豊かにし、美術の基礎的な能力を伸ばし、美術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。



研究主題 一人ひとりのよさや可能性を生かし、  
楽しく感性豊かに表現するための指導のあり方

#### 学習目標

表現・鑑賞することが  
「おもしろそう」「楽しい」  
「やってみたい」  
(造形・美術への関心・意欲  
・態度)  
「考えつく」「浮かぶ」  
(発想・構想の能力)  
「できる」「わかる」  
(創造的な技能)  
「美しい」「すごい」  
(鑑賞の能力)



#### 指導目標

材料・用具の工夫 (体験的指導)  
感じる授業の実施  
(気づき・発見・感動)  
基本的表現方法の学習  
(基礎・基本の定着)  
表現方法の選択 (主体性)  
指導方法や形態の工夫 (授業改善)  
評価の工夫  
(児童生徒の自信や達成感)

### 4 研究の方法

児童生徒は、色や形、表面の肌合いといった造形要素をもとに考え、感動をまとめていく力を身につけることによって、材料や表現方法などを選択し、自分なりの個性的な表現ができるようになると考える。

本研究においては、研究の視点にある学習目標と指導目標に向けて、「何を感じ取るのか」「どう発想していくのか」「何を表現するのか」「何をを使って表現するのか」「どんな方法で表現するのか」等を明確にしなが、個に応じた指導のあり方を探っていく。

### 5 研究の実際

1 題 材 名 「どきどき わくわく 図画工作」

2 題材設定の理由

「先生、僕粘土が得意なんだ。早くやりたいな。」「保育園で、お絵かきするのが楽しかった。小学校では何を描くのか楽しみだな。」初めて図画工作の授業を受ける子ども達の期待に満ちた笑顔の前に、自分もこれからの1年の授業が楽しみになった。しかし、本校では学年が上がるにつれ、図画工作に何かしらの苦手意識を持つ児童が多く、その多くははさみ・のりなどの用具の取り扱いが上手くできず、材料の加工の段階でつまづいている様子が見られる。また、本物そっくりに描くことや作ることがよい作品であり、上手であると思う児童が多く見られるため、描くことが苦手な児童も数名いることが分かった。そのような姿から、『初めて取り組む図画工作で、つまづきや苦手意識を持たせたくない』『作品製作をとおして、自己表現できたという達成感・満足感を持たせたい』という思いを強く持った。

そこで、子ども達と話しながら、保育園でどのような活動をしてきたか、どんなことをしたことがあるかを丁寧に聞き取り調査した。園ごとに聞いていくと、内容・経験量・技術の程度等が全く異なったり、はさみ・のり・クレヨン・色鉛筆・折り紙の扱いも個人差がとても大きかった。各家庭でも、家では工作や遊び道具を自分で作る児童は少なく、安全面を考慮してかはさみを使わせない家庭も多かった。

これから子どもたちは、新しい材料や用具に何度も出会っていく。図画工作での活動をとおして、体全体を使ってそれらに向かう態度、自分のもつイメージに合うように何度も試行錯誤していくことのできる態度を身につけて欲しいと考えている。そこで、入学して間もない1学期は、子どもの身近な材料や用具、遊びを取り入れながら活動することで、「おもしろそう」「楽しい」「やってみたい」という気持ちを持たせ、育てたいと考えた。

そして、どの活動でも、『偶然できた形から、想像を膨らませてできた作品のよさや美しさを味わわせることで、自分の発想を形に表す楽しさを知る』をキーワードに、活動させていきたい。また、1学期にしっかりと用具の使い方を身につけさせたり、十分に試す時間を設けさせたりすることで、達成感・満足感が持てる作品製作をさせたいと考えた。以上のことから、領域別に4つの題材から検証したいと思い、本題材を設定した。

3 研究主題の関連

研究主題

『一人ひとりのよさや可能性を生かし、楽しく感性豊かに表現するための指導のあり方』

仮説（1）

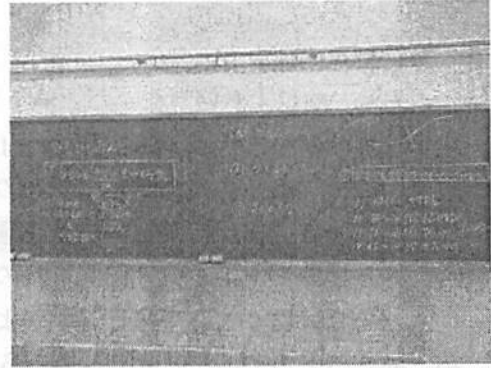
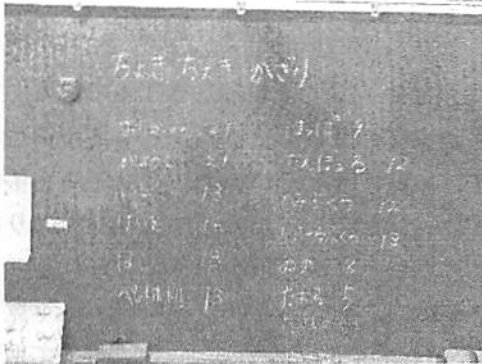
事前の実態調査を丁寧に行い、それに合わせた技法の練習を少人数で丁寧に指導することで、苦手意識を持つことなく、楽しみながら表現することができるであろう。

仮説（1）の手立て

①実態調査を丁寧に行う。

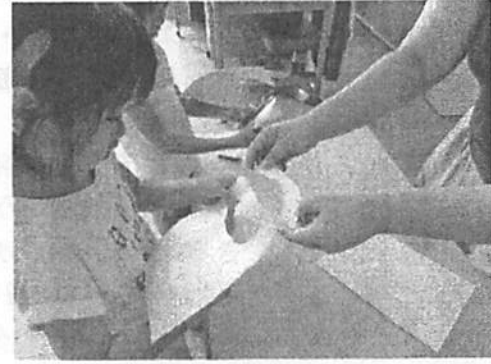
保育園でやったことや、私生活でやったことがあるものを聞き取り調査する。よくわからない児童もいるので、保育園別に聞いたり、実際の素材を見せながらみんなを確認したりす

ることで、しっかりと実態を把握する。自分たちがどんな素材を使ってきたか、黒板にまとめ、これからどの素材に挑戦してみたいかを可視化させることで、題材に対する関心・意欲を高めたい。



②少人数ごとでの指導を取り入れる。

教師対全員だけではなく、グループや個別でその都度指導していくことで、個々の苦手やつまずきに合わせた練習ができるようにする。丁寧に練習することで技術が向上し、活動しやすさが増すことで意欲が高まると考える。



仮説（２）

友だちと協力しながら試したり、試しの時間を充分に取ったりすることで、個々の表現の幅やよさが広がり、豊かな発想で楽しく活動することができるであろう。

仮説（２）の手立て

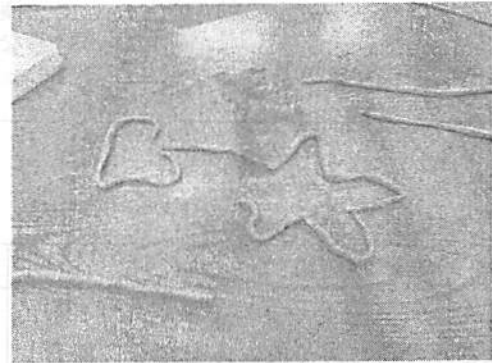
①グループごとに、素材と遊ばせる。

まずは、いくつかの遊び方や方法を一緒に試す。次にグループになって、お互いの様子を見ながら活動させる。様子を見合うことで、人の作品を見て真似をしたり、もっといい方法がないか試行錯誤したりするようになると思う。それらを認め合い、声を掛け合いながら楽しむことで、それぞれの発想が広がる機会を設けたい。



②個人で色々な方法を試す。

試しの時間を、長めに設定する。また、朝学習の時間や休み時間にも取り組めるように、アートコーナーを設けていく。十分な時間をとることで、色々な方法を試したり、周りに干渉されることなく、集中できるようにしたりする。本人のやりたい方法、作品を仕上げたいという思いが十分に追求できるようにする。



4 指導目標

【 】 保育園との関連

①チョコキチョコかざり (工作に表す活動)

【園によって経験は異なるが、生活の中で一番身近な道具なので活動に取り入れたいと考える。】

- ・はさみの使い方に関心を持ち、楽しい飾りづくりを楽しもうとしている。(関心・意欲・態度)
- ・色紙を切ったり、広げたりしながら、自分の思いに合った形や使いたい色を思いつることができる。(発想や構想の能力)
- ・紙の折り方や切り方、飾り方を工夫することができる。(創造的な技能)
- ・飾られた教室などから、自分や友だちの飾りの楽しさを感じることができる。(鑑賞の能力)

②すなやつちとなかよし (造形遊びをする活動)

【園でも砂や土に触れる活動は重視されており、一番経験があったため、様々な発展をしていくであろうと考える。】

- ・砂や土の感触を味わい、体全体で造形的な活動に取り組もうとしている。(関心・意欲・態度)
- ・自分の感覚や気持ちを基に、造形的な活動を思いついている。(発想や構想の能力)
- ・思いついたことを試しながら、手や材料・用具を用いて作り方を工夫することができる。(創造的な技能)
- ・自分が感じたことを友だちに話したり、友だちの話を開いたりして活動の楽しさを感じることができる。(鑑賞の能力)

③やぶいたかたちから うまれたよ (絵に表す活動)

【上手にきれいに描くのがよい絵と考える児童が多いが、偶然できた形から、想像を膨らませてできた作品のよさや美しさを味わわせることをしていきたい。】

- ・破いた紙の見方や置き方，組み合わせ方などを工夫するなどして，絵に表す面白さを味わおうとしている。  
(関心・意欲・態度)
- ・破いた紙の形から思い付いたことを基に，表したいことを考えることができる。  
(発想や構想の能力)
- 思い付いたことを基に，破いた紙の置き方や描き方を工夫して絵に表すことができる。  
(創造的な技能)
- ・友だちの絵を見ながら，表したかったことや表し方の工夫を見付けることができる。  
(鑑賞の能力)

④ひもひもねんど (立体に表す活動)

【各園でも取り組んでる素材だが，一番経験があったため，様々な発展をしていくであろうと考える。】

- ・手や体全体を使って粘土に関わり，形を作ろうとしている。  
(関心・意欲・態度)
- ・粘土の感触や，手の動きを生かして，様々な形を考えることができる。  
(発想や構想の能力)
- ・粘土の扱いを工夫しながら，いろいろな形をつくることができる。  
(創造的な技能)
- ・形の面白さを感じ取りながら，自分の表現のよさを友だちと見付けることができる。  
(鑑賞の能力)

5 指導計画 ※評価基準

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	材 料 ・ 用 具
<p>【工】『チョキチョキかざり』(3時間)</p> <p>はさみの持ち方や使い方を知り，練習しよう。</p> <p>○はさみの持ち方や使い方を知る。</p> <p>○渡し方，注意事項を知る。</p> <p>○折り紙で練習し，その後少し厚い画用紙で練習する。(安全面を考慮した練習をする。)</p> <p>○できた形を組み合わせ，動物を作ろう。</p>	<p>○教科書等の資料を大きく掲示し，見やすくする。</p> <p>○紙の方を動かしながら切ると切りやすいことに気付かせる。</p> <p>○簡単な形や直線を練習させ，できた形を使って作品を作らせる。</p> <p>※はさみの使い方に関心を持ち，楽しい飾りづくりを楽しもうとしている。(表情の観察)</p>	<p>掲示資料</p> <p>画用紙</p> <p>折り紙</p>
<p>紙の折り方や重ね方を工夫したりすると，どんな形ができるかな。</p> <p>○折り方や切り方を考えながら取り組む。</p> <p>○試しながら，作品に使いたい形ができたら，保管しておく。</p> <p>○グループごとに，気に入った形を発表する。友だちに作り方を聞いたり，教</p>	<p>○試す紙をたくさん用意し，試行錯誤する時間を多く設ける。</p> <p>○部品とゴミを間違えないよう，机の上を整理しながら使わせる。</p> <p>※色紙を切ったり，広げたりしながら，自分の思いに合った形や使い</p>	<p>折り紙</p>

<p>えたりする。</p>	<p>たい色を思いつうことができる。 (行動・作品) ○黒板に気に入った形を貼り、誰でも見られるようにする。</p>	
<p>教室をすてきにデコレーションしよう。</p> <p>○これから1年間、一緒に勉強する教室と仲良しになれるよう飾り付けする。</p> <p>○どこに飾れるか考える。</p> <p>○友だちの飾りと組み合わせていく。</p>	<p>○ただ飾り付けするのではなく、目的を持って飾り付けできるようにする。</p> <p>※紙の折り方や切り方、飾り方を工夫することができる。 (活動・作品)</p> <p>○偶然できた形や、友だちと繋がっていった飾りに気付かせる。</p> <p>※飾られた教室などから、自分や友だちの飾りの楽しさを感じることができる。(行動・作品)</p>	<p>セロテープ 紙テープ</p>
<p>【造】『すなやつちと なかよし』 (2時間)</p> <p>砂や土の感触を体全体で味わおう。</p> <p>○砂や土の感触を味わう。乾いている時と濡れた時の固まり方の違いを試す。</p> <p>○思い付いたことを試しながら、材料や用具を使って作る。</p> <p>○自分たちの工夫を発表し合い、友だちの面白そうな活動を真似して楽しむ。</p>	<p>○思い付いたことを存分に味わえるよう、2時間通して取り組む。</p> <p>○砂と土の違いや、乾いている時と濡れた時の違いに目を向けさせる。(砂場と花壇を使用)</p> <p>※砂や土の感触を味わい、体全体で造形的な活動に取り組もうとしている。(行動・発言)</p> <p>○大きな山を作ったり、水を流して川を作ってみたり、ダイナミックな活動を教師も率先して試し、意欲を高める。</p> <p>※自分の感覚や気持ちを基に、造形的な活動を思いついている。 (行動・作品)</p> <p>○工夫の発表は、具体的に行わせる。自分が活動した場所で、使用した道具等を見せながら発表させることで、真似しやすくする。</p> <p>※思いついたことを試しながら、手や材料・用具を用いて作り方を工夫することができる。 (発言・作品)</p>	<p>空き容器 シャベル 枝や葉</p>



	<p>○最後に花壇から出て、全体を見る時間を設ける。</p> <p>※自分が感じたことを友だちに話したり、友だちの話を聞いたりして活動の楽しさを感じることができる。(行動・発言)</p>	
<p>【絵】『やぶいたかたちから うまれたよ』 (3時間)</p> <p>色々な紙をゆっくり破こう。</p> <p>○真っ直ぐやギザギザに破いたり、でこぼこな丸や四角に破いてみる。</p> <p>○『自分が使いたい部品』、『使わないが面白くできた部品』、『いらぬ部品』に分ける。</p>	<p>○何をするか話してから破くと、意図的に作りたい形に破いてしまうので、色々な形に破く楽しさを味わわせていく。</p> <p>○破き終わってから次の時間の学習内容を伝え、部品を見つけさせる。</p> <p>※破いた紙の形から思い付いたことを基に、表したいことを考えることができる。(行動・発言)</p>	<p>新聞紙 包装紙 折り紙 キッチンペーパー 半紙 アルミホイル</p>
<p>破いた紙を選んだり並べたりしながら、表したい物を考えよう。</p> <p>○前時に取っておいた部品を使いながら、作品を仕上げていく。紙の上に並べ、位置を決めてから貼っていく。</p> <p>できた作品に描き足していこう。</p> <p>○クレヨンを使い、表情や背景を描き足していく。</p>	<p>○並べていく際、友だちが残した『使わないが面白くできた部品』から持って行って使ってもよいようにする。</p> <p>※破いた紙の見方や置き方、組み合わせ方などを工夫するなどして、絵に表す面白さを味わおうとしている。(行動・発言)</p> <p>○表情や背景を描く際、必要最低限で描き足すよう声を掛ける。</p> <p>※思い付いたことを基に、破いた紙の置き方や描き方を工夫して絵に表すことができる。</p> <p>(作品)</p>	<p>クレヨン 部品入れ箱</p>
<p>友だちと見せ合おう。</p> <p>○友だちの作品のよい所を見つけて褒めよう。</p>	<p>○よい褒め言葉を書き出し、いつでも誰でも使えるようにしていく。</p> <p>※友だちの絵を見ながら、表したかったことや表し方の工夫を見付けることができる。(発言)</p>	
<p>【立】『ひもひもねんど』(2時間)</p> <p>粘土と仲良くなろう。</p> <p>○粘土の準備・片付けの仕方を知る。</p>	<p>○掲示物や少人数での指導を取り入</p>	<p>粘土 粘土板 粘土用のヘラ</p>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・粘土のしまい方</li> <li>・粘土板の掃除の仕方</li> </ul> <p>○色々な方法でこね、柔らかくする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・叩く ・こねる ・ちぎる</li> <li>・丸める ・転がす ・伸ばす</li> </ul>	<p>れながら、分かりやすく行う。</p> <p>○どんな状態の粘土となら色々な形が作れるか考える。</p> <p>※手や体全体を使って粘土に関わり、形を作ろうとしている。</p> <p>(行動・作品)</p> <p>○ただ練るだけでなく、粘土と仲良くなる気持ちで練らせる。</p> <p>※粘土の感触や、手の動きを生かして、様々な形を考えることができる。(行動・作品)</p>	
<p>粘土タウンを作ってみよう。</p> <p>○ひもひもねんどを使って、道路を広げていこう。</p> <p>○町に道だけでなく、建物や他に町にあったらよいものを作ってみる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・商店街 ・海 ・公園</li> <li>・山 ・自分の家 ・自分や友だち</li> <li>・車 ・動物 ・鳥 ・木や花 ・虹</li> <li>・気球 ・池 ・信号機</li> </ul>	<p>○友だちと繋がった児童の様子を紹介し、友だちと一緒に作ってもよいことに気付かせる。</p> <p>※形の面白さを感じ取りながら、自分の表現のよさを友だちと見付けることができる。</p> <p>(行動・発言)</p> <p>○道を作りながら、「○○も欲しいな。」というつぶやきを拾い上げ、平行して作ってよいことを知らせる。</p> <p>※粘土の扱いを工夫しながら、いろいろな形をつくることができる。</p> <p>(行動・作品)</p>	<p>粘土 粘土用ヘラ 画用紙 クレヨン</p>

6 活動内容 活動内容に関しては、資料参照

## 7 成果と課題

### 【成果】

仮説(1)から

(全) 保育園で経験のある遊びを活動に取り入れることで、楽しく、生き生きと活動することができた。

(全) 事前の実態調査を経て、児童の○○を使ってみようという思いに気づきやすかったので、用具や材料の用意すべきものが明確にやすかった。

① はさみ、のりをもっと使ってみようという意欲が高まった。繰り返し試したり、先生や友だちに作り方を聞いて試したりすることができた。

- ②③事前にどんなことをするか知らせることで、「こんな物使いたいな」「家にある〇〇使えるかな」というやりたいという気持ちが高まり、自分で用意してくるようになった。
- ①④少人数での指導を徹底したので、道具の使い方や活動の進め方、片付け方が身に付いた。そのため、怪我等なく活動できた。

#### 仮説（２）から

- (全) 活動する喜び、友だちと楽しく活動できた喜び、工夫する喜び、できた・描けたという達成感を味わえた喜び、たくさんの喜びを教師や友達と共有することができた。
- (全) 自分の考えたやり方だけでなく、友だちのやり方を見て取り入れることで、色々な方法で試行錯誤することができた。そのため、作品の完成度や満足度が高まった。
- (全) ペアやグループを中心に実態調査や授業の感想発表、話し合いを行ったことで、いつでも意見交流し合える雰囲気作りをすることができた。
- (全) 楽しそう、もっとやりたい、作ってみたいと自主的に取り組むことができた。また、その思いを1学期間持続することができた。

#### 《児童のコメント・アンケートより》

- ① 前より、まっすぐ切れるようになった。丸もでこぼこしないで切れるようになった。
- ① はがれないように貼るのが楽しかった。
- ② 自分で色々考えて道具や材料を持ってくることができた。
- ② 最後まで頑張って作ることができた。楽しかった。
- ③ 2学期も楽しみ。もっと大きな紙に絵を描いてみたい。
- ③ 友だちのやり方を見せてもらったら、自分の作品がもっとかっこよくなった。
- ④ 友だちに褒められて嬉しかった。
- ④ 自分のやり方を真似してくれて、嬉しかった。

#### 【課題】

##### 仮説（１）から

- (全) 保育園と小学校の違いに戸惑う児童が見られた。
- (全) 少人数での指導をしていくには、時間の確保が難しかった。

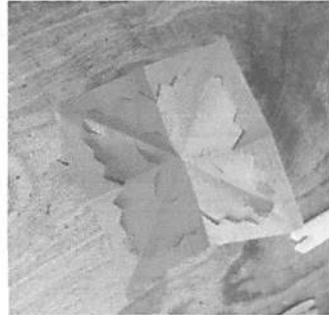
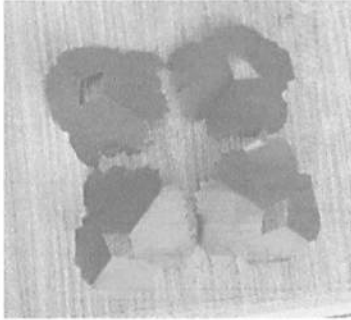
##### 仮説（２）から

- (全) 児童の作品を廊下に掲示するとクラスの友達や学年間でしか、見合うことができなかった。保護者の方からもコメントをもらい、より色々な褒める視点や言葉を味わう機会を作ってもよかった。
- ④ 友だちとの人間関係ができていないので、〇〇した方がいいよというアドバイスから言い争いになることもあった。適切なコミュニケーション能力を育てていくことが大切と考える。また、よい図画工作の時間を作るためには、クラスのよい人間関係を作ることが大切だと実感した。
- (日) アートコーナーの使い方を指導するのが難しかった。1学期ではなく、2学期からでもよかったのではないかと感じたが、テーマごとに絵を展示するとよく見ていたので、絵の展示は引き続き行っていきたい。

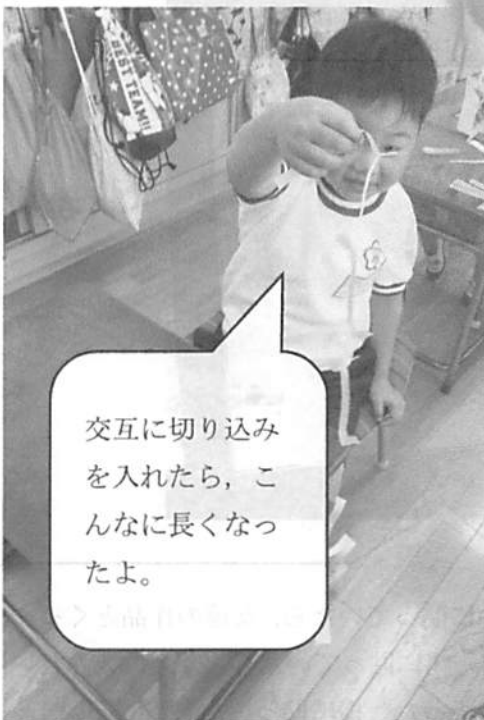
# 資料編



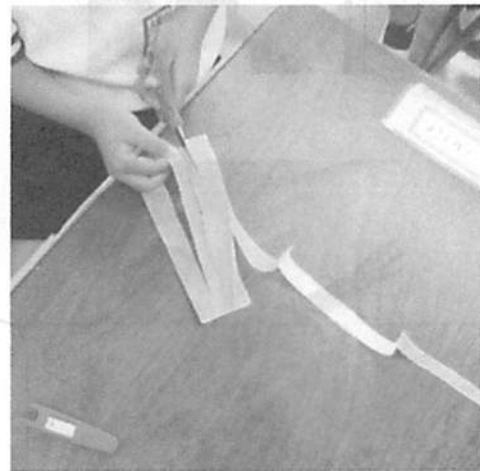
## チョキチョキかざり



折り紙を折ってから、  
切り込みを入れたり、  
所々穴を空けて・・・広げ  
たらステキな形ができ  
たよ～。



交互に切り込み  
を入れたら、こ  
んなに長くなっ  
たよ。





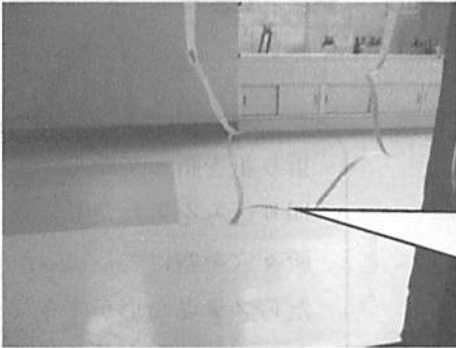
ハロウィーン



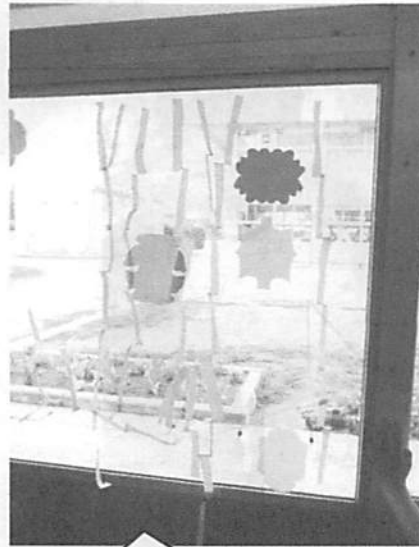
はるがきたよ



ひげくんたち



ある2人の子どもの作品が自然とくっついたのがきっかけで、教室中で友だちと工夫するようになりました。



雨みたいに貼っていたら、友達作品とくっついたよ。一緒に貼っていたら、今度は波みたいになっちゃった。横に貼ってもおもしろい！

すなやつちと なかよし

アイスやゼリーのカップを持ってきたよ。形がみんな違うのにしたよ。ケーキ屋さんごっこができたよ。



家で砂を入れたら楽しそうな容器を見つけてきたよ。卵パックは団子が一気にたくさん作れて楽しかったね。

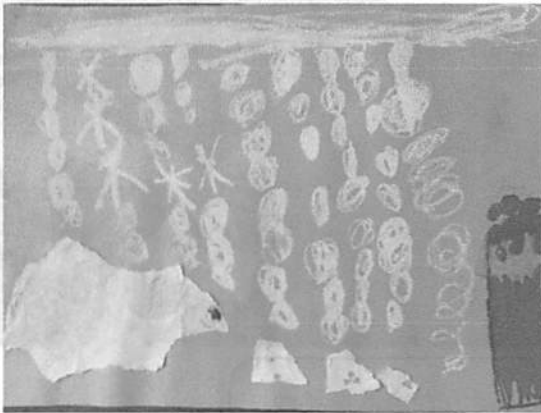


乾いている砂と、水のかけた砂のさわり心地が違うね。湿らせた方が、形が作りやすいよ。先生、お水くださいー！！

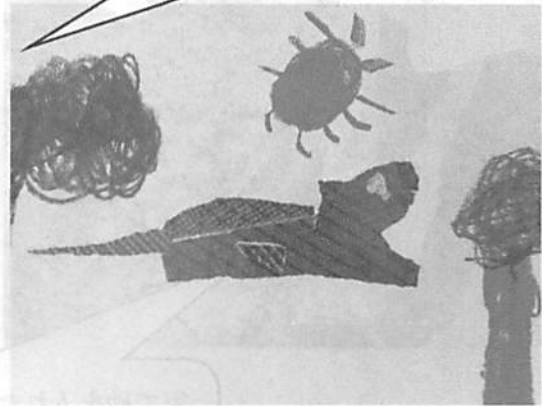


# やぶいたかたちから

## うまれたよ



自分の物だけでなく、友達が破いたけれど使わなかった紙からも部品を選んで使いました。



シロクマの親子



双子のきりん

ピカピカ光る宝石の猫



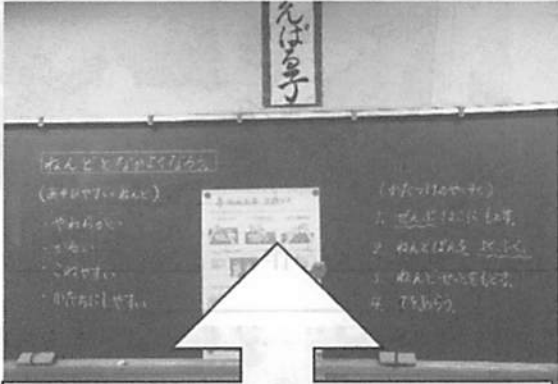
橋の上から見えるかげ

どうしても書き足したかった湖を、部品箱から探してきて貼ったよ。

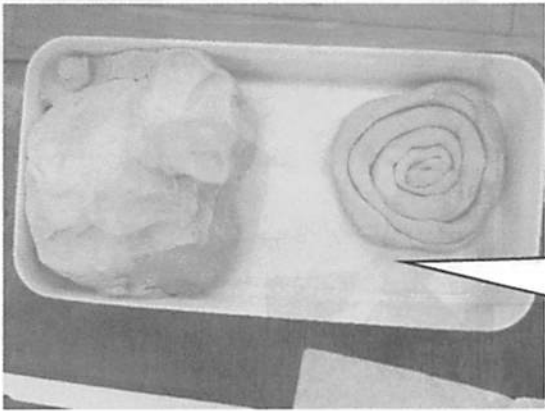
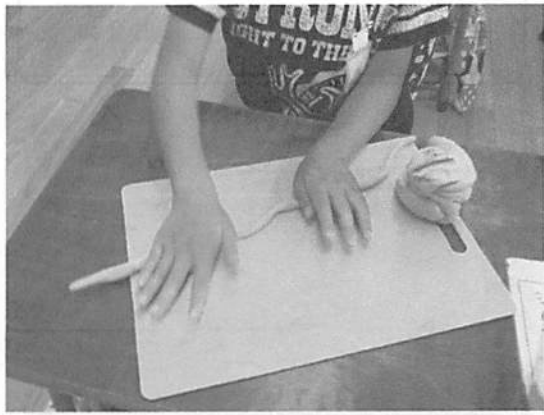


ひもひも ねんど

色々なこね方を試したよ！

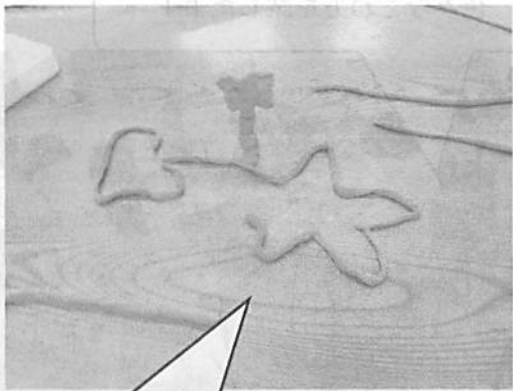


子どもからでた意見を黒板にまとめて、どのような粘土にしたらよいかいつでも確認できるようにする。  
今、どこの手順に取り組んでいるか、印をつけて分かりやすくする。

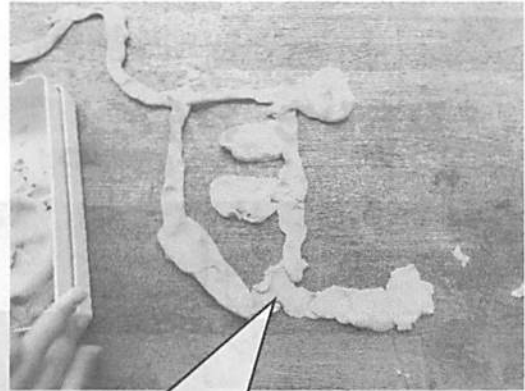


色々なこね方で粘土を柔らかくしたよ。そのあとは、ひもを作ったり、団子を作ってみたりしました。

大事な作品は、片方に寄せて取っておくよ。



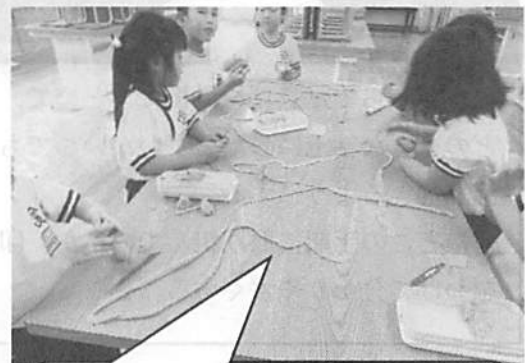
星やハートの道と信号機！



駐車場を作ったよ。



壁があるから、カーブにしようね。



みんなの道がつながってきたぞ。



虹や木を絵で描き足してみたよ。

友だちの作品を見て、よいところを探したり、何を作ったのか質問したりします。



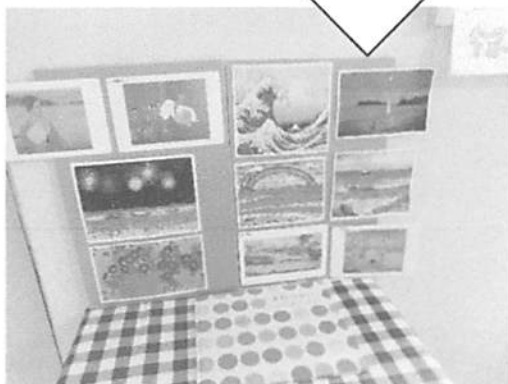
日常実践 (アートコーナー)

先生方のおすすめな絵をテーマごとに展示します。夏休み前は、「夏」をテーマに展示しました。



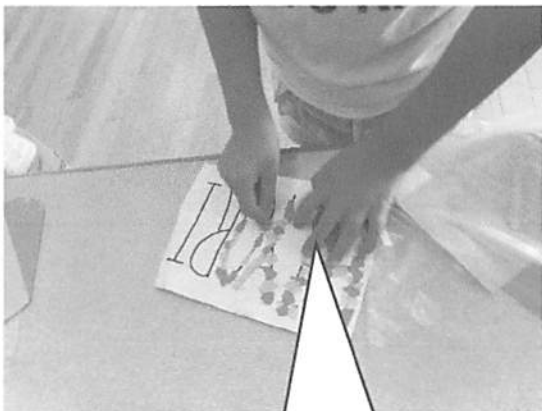
○バブルアート○

簡単な技法を休み時間に練習できるようにしました。写真は、バブルアートの練習です。



○HIRONO GALLERY○

○ちぎり絵○



指先を使って、ちぎるよ。名前をカラフルにして、ALTの先生にみてもらいたいな。

【アートコーナーでの取り組み】

○やってみようコーナー

- ・ちぎり絵
- ・折り紙
- ・バブルアート
- ・粘土

○絵の展示

- ・図工室のアートカードの活用
  - ・画集の設置(図書室・図工室のもの等)
  - ・先生方のおすすめの絵を掲示
- (テーマを決め、様々なジャンルで展示)

○約束

- ①先生がいなときは、はさみは使わない。
- ②友だちと仲良く譲り合って使おう
- ③道具の片付けはみんなでやろう。
- ④汚したら拭こう。